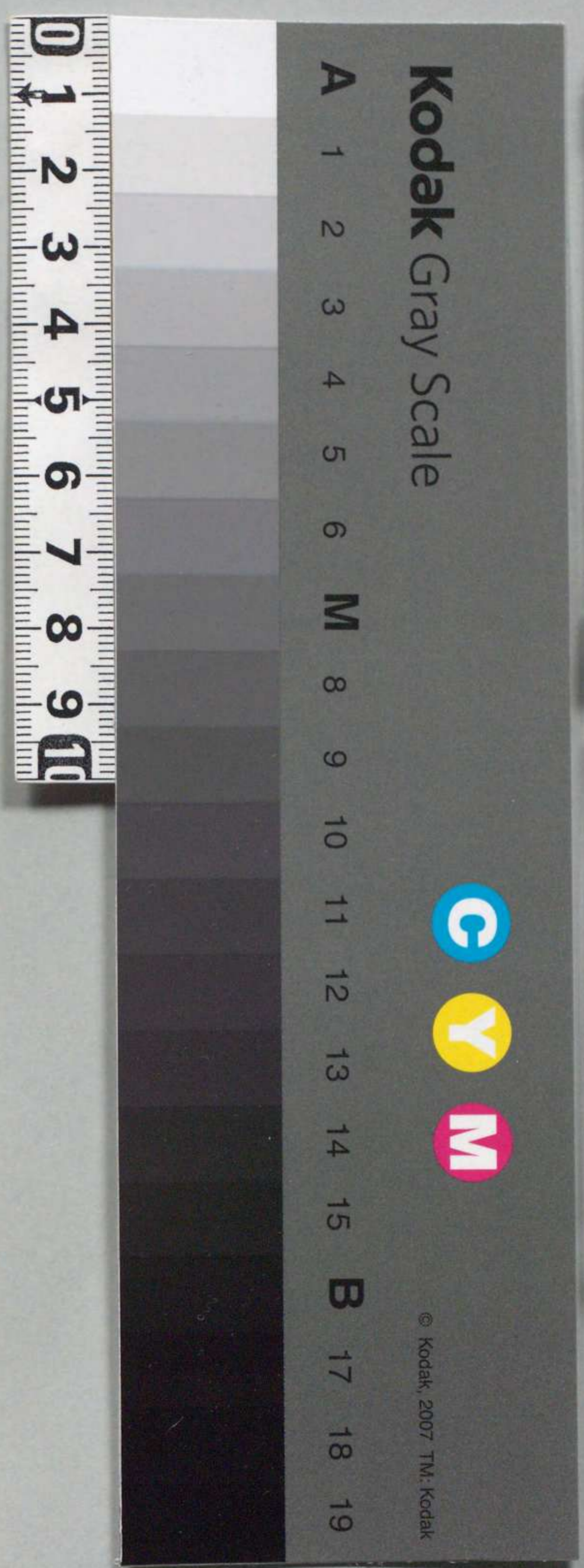
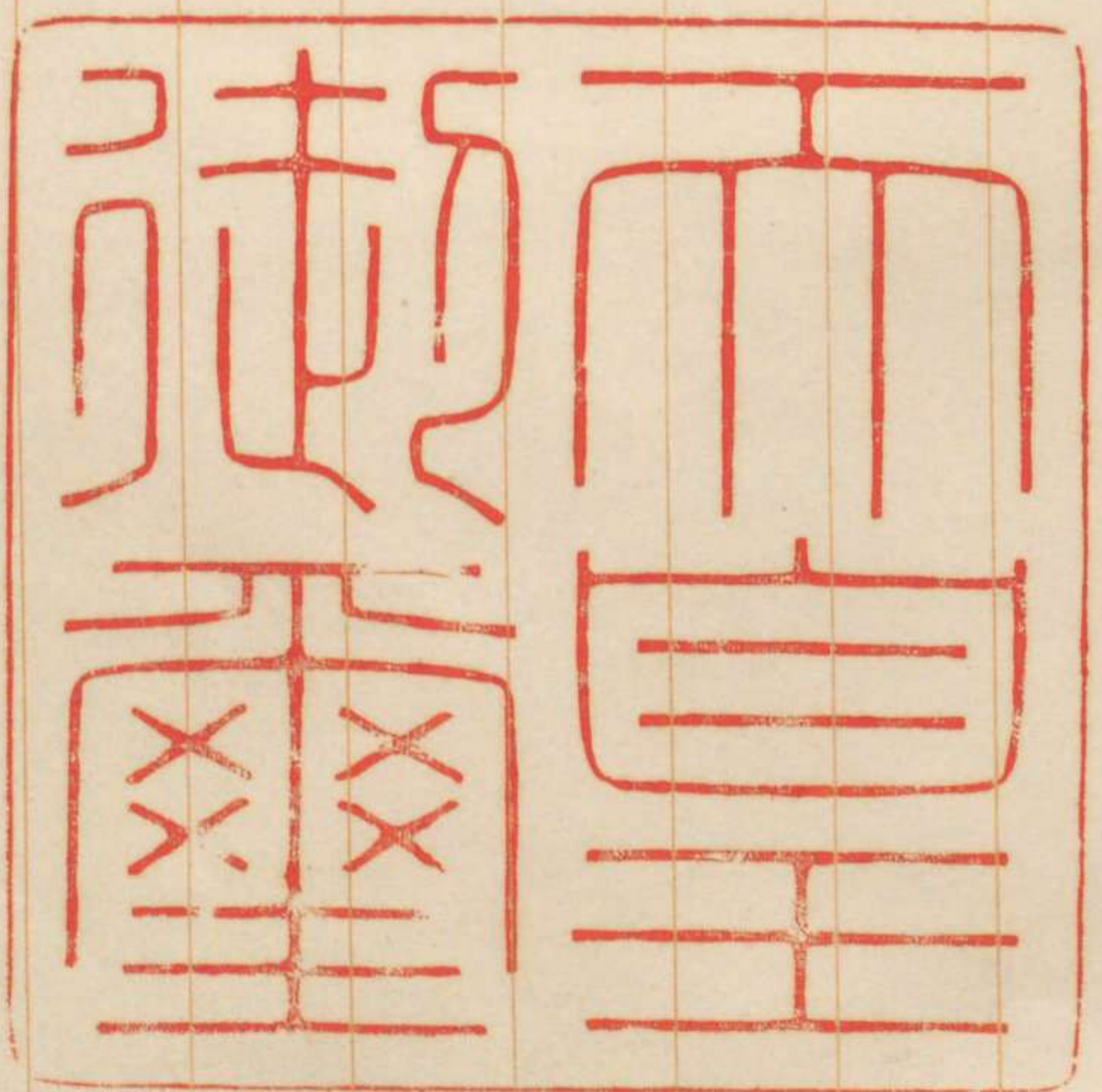


勅字三



朕臺灣總督府官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布セシム

睦仁



明治三十年十月十三日

内閣總理大臣伯爵松方正義
海軍大臣侯爵西鄉從道
陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第三百六十二號

臺灣總督府官制

- 第一條 臺灣總督府ニ臺灣總督ヲ置ク
總督ニ臺灣及澎湖列島ヲ管轄ス
- 第二條 總督ニ親任トス陸海軍大將若
ハ中將ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 總督ニ委任ノ範圍内ニ於テ陸
海軍ヲ統率シ内閣總理大臣ノ監督ヲ
承ケ諸般ノ政務ヲ統理ス
- 第四條 總督ニ軍政及陸海軍軍人軍屬

ノ人事ニ関シテハ陸軍大臣若シ海軍大臣防衛作戰並動員計畫ニ関シテハ参謀總長若シ海軍軍令部長陸軍軍隊教育ニ関シテハ監軍ノ區處ヲ承ク

第五條 總督ハ其ノ職權若シ特別ノ委任ニ依リ總督府令ヲ發シ之ニ禁錮一年以下又ハ罰金二百圓以内ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第六條 總督ハ其ノ管轄區域内ノ防備ノ事ヲ掌ル

第七條 總督ハ其ノ管轄區域内ノ安寧秩序ヲ保持スル爲ニ必要ト認ムルトキハ兵カヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ直ニ内閣總理大臣陸軍大臣海軍大臣参謀總長及海軍軍令部長ニ之ヲ報告スヘシ

第八條 明治二十九年法律第六十三號第二條又ハ第四條ノ勅裁ヲ請フトキハ内閣總理大臣ヲ經由スヘシ

第九條 總督ハ必要ト認ムル地域内ニ

於テ其ノ地ノ守備隊長若ハ駐在武官
ヲシテ民政事務ヲ兼掌セシムルコト
ヲ得

第十條 總督ハ知事若ハ廳長ノ命令又
ハ處分ニシテ戒規ニ違ヒ公益ヲ害シ
又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルト
キハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ
取消スコトヲ得

第十一條 總督ハ所管ノ官吏ヲ統督シ
奏任文官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經

テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行
ス

第十二條 總督ハ内閣總理大臣ヲ經テ
所部文官ノ叙任叙免ヲ上奏ス

第十三條 總督ハ所部文官ヲ懲戒ス其
ハ勅任官ニ係ルモノ並ニ奏任官ノ免
官ハ内閣總理大臣ヲ經テ上奏シ其ノ
他ハ之ヲ專行ス

第十四條 總督府ニ總督官房ヲ置テ
總督官房ニ副官二人及專任秘書官ニ

人ヲ置ク機密事務及文書ノ取扱ヲ掌手
ル

副官ハ陸海軍佐尉官ノ内各一人ヲ以
テ之ニ充ツ

秘書官ハ奏任トス

第十五條 總督府ニ陸軍幕僚海軍幕僚

民政局財務局ヲ置ク

陸海軍幕僚條例ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條 民政局ハ民政及司法ニ關ス

ル一般ノ事務ヲ掌ル

第十七條 財

務ニ關スル事務

ヲ掌ル

第十八條 各

課ハ總督之ヲ定

第十九條

總督府

ハ職官ヲ置ク

民政局長

財務局長

事務官

参事官

技師

人ヲ置ク機密事務及文書ノ取扱ヲ掌手
ル

副官ハ陸海軍佐尉官ノ内各一人ツ以
テ之ニ充ツ

秘書官ハ奏任ト

第十五條 總督府 陸軍幕僚海軍幕僚

民政局財務局

陸海軍幕僚

第十六條 政及司法ニ關ス

ル一般ノ事



第十七條 財務局ハ財務ニ關スル事務

ヲ掌ル

第十八條 各局中ノ部課ハ總督之ツ定

ム

第十九條 總督府ニ左ノ職員ヲ置ク

民政局長

財務局長

事務官

参事官

技師

通譯官

屬

技手

通譯官補

第二十條 民政局長財務局長各一人

勅任トス總督ノ命ヲ承ケ局務ヲ整理ス

第二十一條 事務官ニ專任十八人勅任

又ニ奏任トス民政局又ニ財務局ニ屬

シ總督又ニ局長ノ命ヲ承ケ各部課ノ

事務ヲ掌ル

第二十二條 參事官ニ專任二人勅任又

ハ奏任トス總督又ニ民政局長ノ命ヲ

承ケ審議立案ヲ掌リ及臨時命ヲ承ケ

各部課ノ事務ヲ助ク

第二十三條 技師ニ二十人奏任トス上

官ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事ヲ掌ル

第二十四條 通譯官ニ專任二人奏任ト

ス上官ノ命ヲ承ケ文書翻譯及通譯ノ

事ヲ掌ル

第二十五條 屬技手及通譯官補ニ通シ

テ三百人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ
庶務技術及通譯等ニ従事ス

附則

第二十六條 本令ハ明治三十年十二月一
日ヨリ施行ス

第二十七條 明治二十九年勅令第八十
八號臺灣總督府條例同年勅令第九十
號臺灣總督府民政局官制同年勅令第
百十六號臺灣總督府軍務局官制並ニ
同年勅令第百六十九號臺灣總督府民

政局臨時土木部官制ハ本令施行ノ日
ヨリ之ヲ廢止ス

